

海外だより

モンゴル国からの活動報告 13 国際助産師の日のイベントを企画・運営する ワーキンググループの活動を通して

池本めぐみ

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 助産師

はじめに

私は、独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）の技術協力プロジェクト「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト」の長期専門家として国立国際医療研究センターからモンゴル国（以下、モンゴル）に派遣されています。

モンゴルでは、モンゴル助産師会、保健省らが2017年から毎年5月5日を国際助産師の日（International Day of the Midwives）としてイベントを実施しています。2024年は、保健大臣の下にイベント開催のワーキンググループが設置され、盛大に祝われました。今回は、イベントを企画・運営するワーキンググループの活動とイベントの様子をご報告させていただきます。

1 イベントの企画

例年、モンゴル助産師会のS.Davaasuren会長がイベントを共催する保健省、UNFPA、JICAらと企画を検討し、運営していましたが、今年は保健省がイベントを重要視し、盛大に祝うことを決めました。保健大臣令の発令によりイベントのためのワーキンググループが設置され、保健省の医療サービス局の局長および産科サービスを担当する専門官（産婦人科医）が中心となり、保健省でワーキンググループ会議を開催し、共催する機関とイベントの準備を進めました（写真1）。



（写真1）保健省でのワーキンググループ会議

2 助産発展戦略計画2030のドラフト作成

現在、保健省から発出された助産師の発展計画に特化した政策文章がありません。今回のイベントでは、地方を含めた300名の助産師が集まることになったため、助産発展戦略計画2030のドラフトを作成するために①助産師の卒前・卒後教育、②政策、③助産師の保健人材としての状況、④職場環境と安全、⑤助産ケアの評価、の6つの項目について意見を募ることにしました。その準備として、4月30日にUNFPAが中心となりワークショップを開催し、6つの項目についてウランバートル市内の助産師20名、産婦人科医会の医師、JICAなどが意見交換しました（写真2）。政策を検討したグループからは、助産分野のリーダーシップの観点から保健省や保健開発センターの国レベルの行政機関に助産師免許を持った専門官が必要であるとの意見が挙げられました。また、卒前・卒後教育のグループでは、継続教育の実施とその充実、卒前教育と卒後教育の連携を求める声が挙げられました。



(写真2) S.Davaasuren会長がコメントされる様子

3 イベントの開催

2024年5月5日、「Midwives: A Vital Climate Solution」のローガンの下、助産ケアの質およびアクセスを改善するために、ウランバートルと地方の助産師の約300名が集まり、盛大にイベントが開催されました。開会式では、保健省のD.Ochirbat事務次官、JICA田中伸一所長、UNFPAのKhalid Sharifi所長から平時およびCOVID-19などの有時にも母子のために最前線で働き、母子保健に貢献している助産師への労いと祝いの言葉がかけられました。

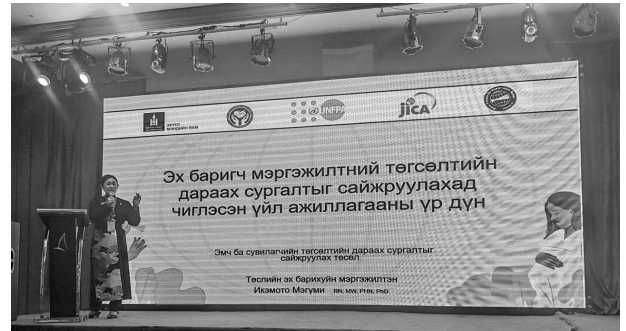
馬頭琴による演奏、助産師らが「へその緒の母(=助産師)」を歌い(写真3)、会場が熱気に包まれました。



(写真3) 助産師が「へその緒の母」を歌う

その後、保健省、保健開発センター、モンゴル医科大学、モンゴル助産師会からの発表により、助産師を取り巻く政策、卒前・卒後教育、臨床現場の現状や課題などが共有されました。筆者は、「助産師の卒後研修強化に向けた活動・成果」として、助産師のコンピテンシーの創出、指導者養成研修プログラムの開発と導入、新人助産師研修プログラムの開発、5領域の専門研修の開発と導入、助産師が臨床

現場で助産師の職務記述書に沿った業務の実現のために上位文書であるMongolian National Standardの改訂のためのドラフト完成について説明しました(写真4)。また、午後のワークショップでは、助産発展戦略計画2023のドラフトを作成するためにグループワークと発表、アンケートが実施されました。



(写真4) 筆者の発表

ワーキンググループの活動を終えて

ワーキンググループ(写真5)では、イベントの企画から運営、実施を順調に進めることができました。それぞれが母子保健の向上、助産師の職業の価値を高めるために役割を認識し、互いを尊重しながら活動することができたからだと思います。また、助産の関係者がさまざまな課題や政策文書の作成のために協働する時間は、モンゴルの助産師と母子保健の未来を見据えて戦略を考えるかけがえのない時間であり、臨床の助産師が政策についても考える機会であったと思います。

最後になりましたが、モンゴルの助産分野に関わるすべての皆様に深く感謝申し上げます。



(写真5) ワーキンググループメンバー